

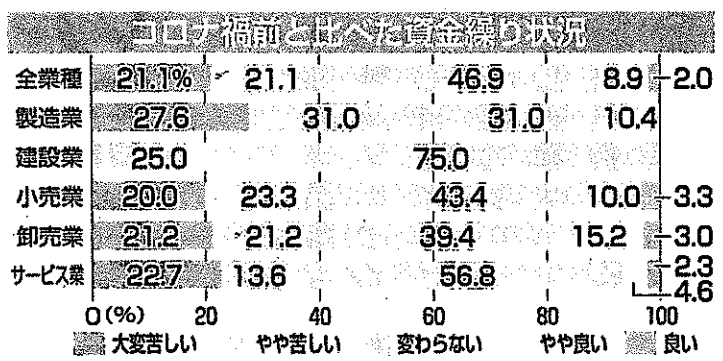
# 「資金繰り苦しい」4割超

## 福井会議所 コロナ影響調査

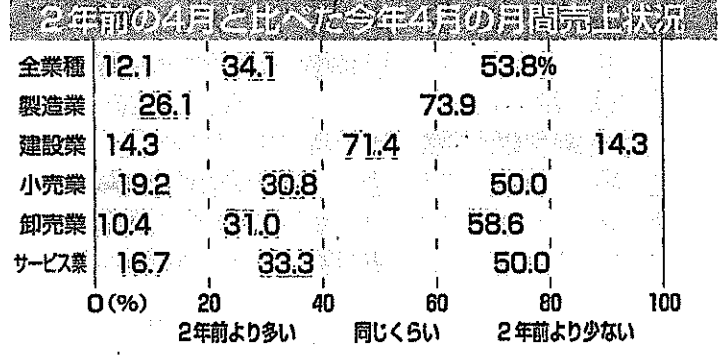
新型コロナウイルス感染拡大による企業の影響について、福井商工会議所が行った調査によると、コロナ禍前に比べ、4割超の事業所で資金繰りが苦しくなっていることが分かった。業種別では製造業が最も悪化しており、「大変苦しい」「やや苦しい」との回答が約6割に上った。同会議所は「依然として新型コロナの影響は大きく、小規模事業者ほど苦しい業況が続いている」と分析している。

(堀英彦)

### 製造業6割最も悪化



調査対象は会員事業所千社で、150社から回答があった。調査時期は5月13〜17日。同会議所が新型コロナの影響で、資金繰りに関する調査を行ったのは初



めて。資金繰りについて「コロナ禍前より大変苦しい」は21.1%、「やや苦しい」も21.1%だった。「変わらない」は46.9%。中で

も製造業は「大変苦しい」が27.6%、「やや苦しい」は31.0%。建設業は「やや苦しい」が25.0%、残りは「変わらない」で、新型コロナの影響は業種で差があった。規模別で従業員5人以下は「大変苦しい」「やや苦しい」が合わせて56.6%となった。

2019年4月と比較した今年4月の月間売り上げは「少ない」が53.8%。減少割合は「1〜2割」が37.8%、「3〜5割」が35.7%だった。小売業は「少ない」が50.0%だったが、「多い」も19.2%あり、コロナ禍による巣ごもり需要などを取り込めたかどうかで、差が出たとみられる。

コロナ禍で生じた借入金の規模は「1千万〜3千万円」が33.9%、「1千万円以下」が31.3%で、3千万円までが約6割を占めた。「5千万円以上」は26.8%だった。